

事業区分	文化芸術事業			鑑賞事業		
事業名	野村万作・萬斎狂言会					
目的・内容	恒例となった狂言公演を引き続き開催することで、熱烈な愛好家はもとより、広く県民に日本の代表的な古典芸能の鑑賞機会を提供する。平成21年度は、和泉流・野村家の狂言公演を開催することにより、日本の古典芸能の良さを再確認できる機会を提供し、固定ファンだけでなく新規顧客の開拓を図る。 【使命】文化人口の拡大とレベルアップ 【事業の柱】潜在的な鑑賞者の掘り起こしと文化支援者層の拡大					
開催日時	平成21年5月28日(木) 開演18:30					
会場	倉吉未来中心 大ホール					
入場料・参加費 (友の会・団体)	1階席 5,000円 (4,500円)	2階席 4,000円 (3,500円)	foreigner(外国籍の方) 1,000円(2階席対象)	大学生以下 1,000円 (2階席対象)		
集客状況	入場者数	1,013名	設定席数	1,163席	集客率 87.1%	
事業費状況	予算額	収入	4,160,000円	支出	4,469,000円	収支比率 93.1%
	決算額	収入	4,430,000円	支出	3,750,616円	収支比率 118.1%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変有名な方で、大変ポピュラーな演目で、全く狂言を知らない家族も誘いやすかったです。こういったものをきっかけに、本物に触れる機会が増えて、本物を感じ取れる人々が増えるのは、とてもいいなと思いました。</li> <li>・「附子」は小学校で習ったのでそれを生で観て大変感激しました。「二人袴」も初めて観ましたが、大笑いをしてしまい、大変楽しかったです。他の題目も是非観てみたいと思いました。</li> <li>・初めての狂言で、初心者でもわかるのが不安でしたが、大変興味深く面白かったです。</li> <li>・最初の解説が充分楽しめ、一層狂言そのものを楽しめました。小さい子どもにも笑えるというのはすごいですね。</li> </ul>					
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・狂言公演としては、過去3番目の入場者数で、減少傾向にあった古典芸能鑑賞者を増やすことができた。</li> <li>・アンケート結果より、今回初めて狂言を鑑賞したという割合が5割程度あった。初心者でも理解しやすい演目の設定、出演者のネームバリューによる集客で、新たな鑑賞者開発ができた。</li> <li>・「落語」公演とのセット券で、全体として150セット売り上げ、低迷している古典芸能の盛り上げの一役を担った。</li> <li>・大学生以下の売り上げが43枚あり、学校関係への広報宣伝の効果が見られた。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前からのリピーター顧客と新規顧客、両方に満足いただける演目設定などの検討。</li> <li>・foreigner席は、4枚と販売枚数としては少なかったが、外国籍の方の異文化交流としても、このチケット設定は今後も継続して行くことが必要である。</li> </ul>					
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野村万作、萬斎両氏のネームバリュー、およびポピュラーな演目が量的成果をもたらしたと思われる。古典芸能のアピールが十分に発揮されたと思われる。</li> <li>・古典芸能の顧客をいっそう広げるためにも、今回のような分かりやすい演目での公演はよかったのではないかと思う。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知名度が高い出演者の力をいい意味で利用して一般市民をリピーターにすることで、該当ジャンルの固定客として定着させるのが、この倉吉(鳥取)では有効だと感じる。</li> <li>・今後も古典芸能を、斬新な企画で県民に提供し、文化レベルを大いに高めていただきたい。</li> <li>・この事業が財団主催事業であることの認識がどのように浸透しているのかについては課題があると思われる。</li> </ul>					
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回新たに鑑賞者となった新規顧客を、今後の「リピーター鑑賞者」へとつなげる工夫を行う。</li> <li>・ファン層を拡大していくために、新しい切り口や取り組みを常に提供していく。</li> <li>・演じる側と共に、その時の旬の演目を県民目線で考え、事業を企画していく。</li> </ul>					